

看護学同窓会便り No. 13

平成29年11月23日発行
連絡先
電話・FAX 095-819-8515
同窓会事務局 浦田

会長あいさつ

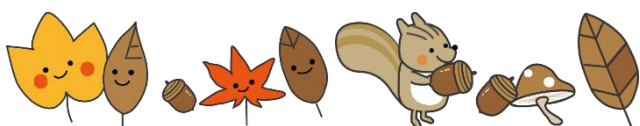
会長 浦田 秀子

会員の皆様におかれましてはお健やかに過ごしの事とお慶び申し上げます。7月に発生した九州北部豪雨で被災された同窓生の皆様に心よりお見舞い申し上げます。昨年4月の熊本地震に続き、8月には迷走台風による各地での豪雨、水害、10月には鳥取県中部地震、その後も多くの災害が発生しております。今やどこで何が起きても想定外はないということを肝に銘じました。8月に学会出席のため鳥取に参りました。学会が開催される倉吉市と三朝町は震度6弱の影響を受け、当時の状況がパネルで紹介されました。一時、町全体の屋根がブルーシートで覆われていたということでしたが、今や被害を感じさせることがないほどの日常を感じました。市民一丸となって復興に取り組む力強さに感動いたしました。

少子・高齢社会が進み、2025年問題が大きく取り上げられています。保健・医療・福祉の人的資源と財源が限界を迎えている中で、私達の職能団体である公益社団法人日本看護協会は、「2025年に向けた看護の挑戦 看護の将来ビジョン いのち・暮らし・尊厳を守り支える看護」を提言しました。国民のニーズに応え、健康な社会をつくるために、従来の病院完結型から医療・ケアと生活が一体化した「地域包括ケアシステム」への転換です。このように療養の場が病院から地域へと変化する中で、治療と生活の両面から支援する看護への期待が高まっています。日本看護協会は求められる看護の役割に応えるべく、看護基礎教育の4年制化実現に向けてかじを切りました。地域包括ケアの時代、対象者の健康問題はこれまで以上に複雑となり、個別性の対応が求められます。このような社会のニーズに応えるためには教育年限の見直しは必要だと考えます。

すでにご存じのことと思いますが、元長崎大学長土山秀夫先生が9月2日にお亡くなりになりました。先生は医科大学3年生の時被爆されました。病理学者として研究する一方、核兵器廃絶運動を「論理と感性の両輪」というお考えで長年にわたって支え、長崎大学核兵器廃絶研究センターの立ち上げに関わられました。私ごとながら学生の時に病理学を教えていただきました。いつも穏やかに、そして笑顔で学生達に向き合っていたことは貴重な財産です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

今年も11月23日に同窓会総会、懇親会を開催いたします。会員の皆様にご参加いただき、親睦を深めていきたいと思っております。是非、お誘いあわせの上、ご出席下さいますようお願い申し上げます。皆様にお会いできることを楽しみにしております。



平成28年度庶務報告

- 平成28年度入会者 80名
平成29年度入会者 76名
- 経過報告
 - 同窓会総会 平成28年11月23日
 - 理事会開催 3回
 - 慶弔
 - ・物故者弔電
 - ・原爆慰霊祭に浦田会長献花、生花寄贈
 - 看護学研究奨励賞運営
 - 同窓会便りNo.12発行

同窓会員数

総数	3,864名
養成所	276名
厚生女学部	136名
看護学校	1,304名
医療短大	1,201名
保健学科	924名(医療短大の卒業生7名を除く)
修士課程	20名(看護学校、医療短大、保健学科の卒業生26名を除く)
名誉会員	1名
準会員	2名



平成29年9月30日現在

ホームページのご案内

長崎看護学同窓会のホームページを開設して皆さまにお知らせやご報告、ニュースレターなどの情報発信を行っております。どうぞ一度ご覧になってください。

[<http://www.nagasaki-kango.org/>]

看護部長に就任させていただきました

長崎大学病院看護部長 貞方三枝子

皆様、初めまして。

平成29年度の看護部長を拝命されました貞方三枝子と申します。私は、貴校の卒業生ではありませんが、準会員として当同窓会に入会させていただきました。よろしくお願いいたします。

今年、病院事務の改組とともに病院が大きく組織改編し、看護部も副看護部長が5名(1名増)の6人体制となり、事務部門と連携・協働しながら業務を行っていくこととなりました。新生看護部は、副看護部長が46歳～54歳で平均年齢が若く、エネルギーでバイタリティーにあふれています。私は、4月～9月「人事」担当副病院長。10月からは「広報戦略室」担当副病院長となりました。広報戦略室は、PDCAサイクル(運営にかかわる進行)管理と病院に関するすべての情報収集・発信することを目的として、当院で初めてできた部門です。

平成29年度の病院のスローガンは“連携と協働”で、職員同士がコミュニケーション良く、明るく働きやすい病院を目指しています。平成28年度の平均在院日数は13.79日、稼働率は86.25%。新入院患者数は18318人/年と、非常に目まぐるしく忙しさが増しています。安全も危惧されますが、平成24年度に導入したパートナーシップ・ナーシングシステムや看護師長の指導の下、『私たちはどんな時も、安心と信頼を得られる看護を提供します。』の看護部理念に基づき、寄り添う看護を実践しています。7月から看護部の院内イントラネットに、“Sada日和”と題して、院内ブログをはじめました。最近は楽しみにしてくれている職員もいて、嬉しくなっています。

さて、平成24年度より、浦田会長(前医学部保健学科教授)のお力をお借りして、「看護部・看護学専攻連絡協議会」を立ち上げさせていただき、互いの情報を共有しながら連携・協働しています。何事も情報共有し連携協働することで、効率性や生産性も増してきたと思っています。このことは、他大学や他病院からうらやましがられており(自慢)、他病院では珍しい状況のようです。

当院も今年度で病院開院156周年、これまでの先輩方が作ってこられた伝統と熱い思いを引き継ぎながら、『温故知新』で、より素晴らしい病院となるよう943名の看護職員と頑張っていきたいと思っております。同窓会会員の皆様のご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



熊本地震での支援活動を通して

長崎大学病院 看護師 久志愛美(保健学科9回生)

長崎大学看護学専攻を卒業後、長崎大学病院集中治療部看護師として働き始めました。働き始めたばかりのころは、生命の危機的状況にある患者様の病態や治療内容、さらには家族支援など分からないことばかりで日々自分は看護師として何が出来ているのか自問自答する日々でした。しかし、患者の回復や患者・ご家族の暖かいお言葉に励まされながら、医師・先輩看護師・他職種の方々の暖かく的確な指導を受け看護について学ばせていただき、不安ばかりではなく看護師としてのやりがいを少しずつ感じていました。そんな中、熊本地震が発生しました。集中治療部の先輩看護師はDMATとして発生直後より被災地に行き活動していました。先輩方の活動や連日報道される被災地の現状を見て何か私にも出来ることはないのかと考えていました。看護部より被災地支援のため協力依頼があり先輩看護師だけではなく後輩看護師も支援に行きたいと名乗り出ている姿を見て、私も看護師として被災地の力になりたいと思い参加させていただきました。

医師2名、看護師2名、事務員1名のチーム編成で長崎大学災害医療支援第2班として熊本へ向かいました。被災地に向かい道中、家屋の倒壊やかけ崩れによる道路封鎖などあり被害の大きさを感じました。阿蘇地区災害保健医療復興連絡会議事務局のある阿蘇医療センターが私たちの活動の中心となりました。まずは、被災者でありながらも医療従事者として働いている現地看護師とともに救急外来業務をさせていただきました。その後中心的な活動となったのはノロウイルス集団感染の可能性などが問題に挙がってきた時期でもあり、感染対策への活動でした。まずは避難所へ赴き、避難所の手指消毒などの感染対策の現状把握、感染症状のある方の有無などの調査を実施したのち、被災地の感染防御のマニュアルの作成に取り掛かりました。3日間の熊本支援を通して、現状や問題が刻一刻と変わっていくなかで、被災者の安全・健康・精神を守っていくために、今現在起こっている問題・またこれから予測される問題に対して迅速に対応できる管理体制と医療スタッフのチーム力・判断力のすごさを感じました。いづくどこで起こるか分からない災害。災害が起こった時に、しっかりと被災者・患者に寄り添って支援ができるように、これからも熊本災害支援で学んだことを胸に日々の看護・チーム医療を大切にしていきたいと思っております。

地域包括ケア推進の社会の中での保健・看護職の活動について

西田隆宏(保健学科2回生)

佐世保市吉井地域包括支援センターに勤務して5年目になります。高齢者の介護予防に関する業務に携わっており、地域の公民館等で体操の指導や健康教育を行っています。

日々の業務で疑問に思うことや、地域診断の進め方がわからない等で悩むことが多々あります。そのようなときは、母校の長崎大学医学部保健学科の先生方に相談しながら解決の糸口を見つけ出すようにしています。また、それらの成果を学会発表や研究論文という形で世に公表できればと考えています。

近年、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供できる地域包括ケアシステムの構築を目指した政策が進められています。このなかで保健・看護職は医療・予防の面での助言を特に求められます。例えば、地域の高齢者から「足が痺れて転倒が多くなった」、「最近、壁に虫が見えて不穩になることがあった」、「ムセやすくなった」等の相談を受けます。このような場合、受診を勧めることはもちろんのこと、関連する症状の把握や日常生活での困りごとに応じることが私の地域における役割だと感じています。ですので、医療に関する知識を日々学び、地域高齢者に対して適切な知識の提供や助言ができるように頑張っていきたいと思えます。

また、地域における効果的な介護予防戦略を打ち立てることが求められます。そのためには地域を俯瞰的に診ることが重要だと感じています。多様な背景を持つ対象の集団的特性を明らかにすることで、その集団の強みや課題が見えてきます。私は、先生方に助言を頂きながら地域在住高齢者のデータ解析を行い、担当圏域の閉じこもりの割合や閉じこもり高齢者の傾向を明らかにしました。その結果を基に地域ケア会議にて地域の方々や多職種の方々とディスカッションできたときは達成感が得られました。保健師として地域で働く中、様々な苦難もありますが、それを能力向上のために必要な訓練だと捉え、成長のプロセスを楽しんでいきたいと思えます。



凧として看護 ～久松シソノ名誉会長を偲んで～

田添京子(看学22回生, 理事)

久松シソノ氏(以後氏と記載)が逝去されて早や8年。原爆の日や同窓会の日はず氏の記憶がよみがえります。氏は長崎大学病院勤務中、21歳で被爆。看護部長退官後は不屈の魂で平和活動に身を投じられました。2005年に、看護界のノーベル賞とも言われる「フローレンス・ナイチンゲール記章」を受章。長崎の看護界は沸き立ち、推薦に関わった者は授章式への同行の栄に浴しました。皇后陛下が久松氏の胸に記章を授与され、氏は直立不動でとても緊張の面持ち。日赤看護学生のキャンドルサービスの美しく荘厳だったこと。あの日の風景は私の生涯でも特筆すべき記憶となりました。懇親会では尊敬してやまない川島みどり先生にもお声をかけて頂き、夢のようでした。川島先生はこの2年後に同じくナイチンゲール記章を受章されました。氏を敬愛し、氏のご存命中に『凧として看護』を出版。久松シソノ著、川島みどり編となっており、氏に関する記録やインタビューを通して、氏の語りという一人称の形で書かれています。何度読んでも胸うたれ涙し、力をもらえる本です。

若い同窓会会員は氏の名前も知らない人が多いでしょうが、看護部にあるこの本を一度手に取ってみてください。「あとがき」を読み、もし心が動いたらさらに読んでほしいと思えます。看護は人間に対峙する仕事。真摯に対峙することで自己を育てられる仕事です。

一度しかない人生に看護を選んだことに、また新たな意味や力を見いだせるかもしれません。氏は最後まで凧とした姿を私たちの記憶に残して、一人黄泉の国に旅立たれました。

ある日誰も知らぬまま逝ってしまわれたから、今でもふっと私たちの前に姿を見せて下さる気がするのには私だけでしょうか？人の死は2度あると言った人がいます。一つは肉体が朽ち果てる死、もう一つはその人を思い出す人がいなくなったときだと。

被爆から72年が過ぎ、被爆体験者がいなくなるとよく危惧されます。しかし、この語りの本を読むとき、氏はすぐそこに感じられ、私の心も凧とさせられます。書き残すことの価値を痛感します。

物故者のお知らせ

お知らせいただいた方を掲載しております

看学25回生	川添美喜子	(旧姓妹尾)	平成28年12月24日
養成所19期生	宮崎 トミホ	(旧姓 木田)	平成29年 5月16日
厚生女学部1回生	大橋 ミエ	(旧姓 今里)	平成29年 9月29日



平成29年度看護学研究奨励賞受賞者 ならびに次年度募集について

本年は看護学研究奨励賞に長崎大学大学院生の応募1題が採用となりました。本賞が研究活動の一助となることを大変嬉しく思います。総会では授賞式とともに、昨年・一昨年授賞された研究のうち3題の発表を予定していますのでぜひご出席下さい。

〈本年度受賞の研究課題〉

- ①「遺伝学的検査を受けた児の検査結果説明までの親の経験」
永井真理子(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座 修士課程2年)

〈総会で発表予定の研究課題〉

- ①「『術前ストレス対処力』と『集中治療室での術後せん妄や退院後QOL』との関連検証」
村田洋章(東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科博士課程)
- ②「腎移植後レシピエントの自己管理行動に影響を及ぼす背景要因に関する検討」
村松直子(広島大学大学院医歯薬保健学研究科保健学専攻 博士課程前期2年)
- ③「NIPTを受検した夫婦への意識調査」
渡名喜海香子(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座 修士課程2年)

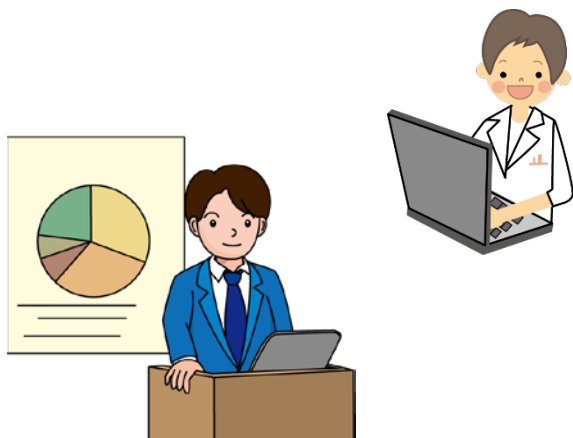
☆次年度も以下の日程で募集しますのでご応募ください。

応募期限:平成30年6月20日～7月20日 詳細については下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先:勝野久美子

(長崎北病院 Tel 095-886-8700

e-mail:kita_k_katsuno@shunkaikai.jp)



平成29年度看護学同窓会理事名簿

役職・氏名	卒業回	所属・連絡先
名誉会長 加藤 奈智子	看学2	
会長 浦田 秀子	看学21	原爆後障害医療研究所 819-8515
副会長 勝野 久美子 (看護学奨励賞 担当)	看学27	社会医療法人春回会 長崎北病院 882-7008
萩原 絹子	看学28	
書記 小渕 美樹子 中尾 恵理子	看学36 医短3	看護部・819-7522 医学部保健学科 819-7946
会計 鳥越 絹代 齋藤 美保 ※	医短1 医短2	8階西病棟 819-7398 看護部 819-7523
監査 下田 澄江 田添 京子	看学20 看学22	
学外理事 平湯 路子 荒木 宣代 山口 則子 林田 英子 久松 千鶴香 鈴木 尚子 ※ 鈴木 由布子	看学6 看学10 看学15 看学21 看学26 看学30 保健学 科6	
学内理事 高橋 真弓 福田 昌恵 中村 千代美 片山 哲也 張川 恭子 森藤 香奈子 (看護学研究 奨励担当) 大山 祐介 ※ 森下 暁	看学25 看学34 看学36 医短8 医短10 医短10 医短15 医短10 保健学 科2	看護部 819-2531 手術部 819-7424 11階西病棟 819-7798 11階東病棟 819-7391 SCU 819-7392 医学部保健学科 819-7981 医学部保健学科 819-7915 緩和ケアセンター 819-8555

※ 平成29年度 新理事



編集後記:様々な所で頑張っている同窓生の声をお伝えできることを、とても嬉しく感じながら毎回、編集させていただいております。これからも活躍している同窓生の姿をお伝えしたいと思っておりますので、情報をお持ちの方はぜひ同窓会理事までお知らせください。

(医短10・張川恭子)